

総務産建常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務調査として、閉会中の継続調査に付託された調査事件について、調査の経過及び結果を会議規則第77条の規定により報告する。

平成29年6月20日

上富良野町議会議長 西村昭教様

総務産建常任委員長 中澤良隆

記

調査事件名

- 1 ジオパークによる地域活性化について
- 2 友好都市提携の方向性について

調査の経過

本委員会は、閉会中の継続調査事件名を「ジオパークによる地域活性化について」と「友好都市提携の方向性について」に決定し、平成27年2回、平成28年6回、平成29年4回、計12回にわたり委員会を開催し、調査を行った。また、平成28年10月17日から20日の4日間、先進地調査として津市では「友好都市提携について」、伊豆市では「伊豆半島ジオパークの現状と課題」を中心に行政調査を実施した。その結果を次のとおり報告する。

1 ジオパークによる地域活性化について

(1) 日本ジオパークの現状

ジオパークとは、大地の遺産を保全し、教育や地域の経済を持続的な形で活性化する活動といわれている。

現在、日本ジオパークネットワークに加盟している地域は43地域で、うち8地域がユネスコ世界ジオパーク認定も受けている。また、4年に1回現地調査を含む再認定審査の制度もあり、加盟認定が取り消される場合もある。

(2) 上富良野町の主な取り組み状況

年 月 日	主な取り組み内容
平成26年8月18日	美瑛町長・上富良野町長がジオパーク構想に向けた合意
平成27年4月14日	十勝岳山麓ジオパーク推進協議会設立
平成27年5月1日	日本ジオパークネットワーク準会員に加盟
平成27年10月26日 ～31日	郷土館特別展示「ジオパーク展」開催

平成28年4月 1日	事務局体制の強化（ジオパーク推進室の設置） 【専門員(地域おこし協力隊)配置=人文地理学1名、自然地理学1名】
平成27年4月～ 平成28年3月31日	普及活動：出前講座、講演会、ジオ関連ツアーなど 56回 教育活動：小学校出前講座、子どもジオサイトツアー、 原生林探検ツアーなど 11回 ジオサイト保全活動：登山道整備など 9回 日本ジオパークネットワーク大会など参加 12回
平成29年5月21日	日本ジオパークネットワーク加盟審査プレゼンテーションの実施（千葉県千葉市）

(3) 「十勝岳ジオパーク(美瑛・上富良野エリア)」構想の内容

美瑛町と上富良野町で推進する「十勝岳ジオパーク構想」は、平成29年度日本ジオパークの認定を目指して、まちづくり、教育、環境保全の活動を「十勝岳ジオパーク推進協議会」を中心に展開している。

ア 十勝岳ジオパーク構想の理念

美瑛町・上富良野町は、十勝岳の火山活動によって生まれた大地に、自然と人の営みによって生まれた美しい丘陵景観が広がっている。その丘には人々の苦労と希望の結晶として豊かな農産物が実り、温泉は癒しを与え、火山の恵みとして貴重な地域資源が多く存在する。これらの地域資源は、火山との共生と火山災害からの復興の中で、歴史や文化と共に継承されてきた。

私たちは、この地域資源の魅力を守り、学び、広く発信して、火山と共生する質の高い地域づくりに取り組むことで、将来にわたって住民が地域に誇りを持つことができる持続可能な発展を目指している。

イ 十勝岳ジオパーク構想のテーマ…「うねる大地が描く 十勝岳の軌跡」

地域の丘観光や景観、農業の歴史(軌跡)は波状丘陵地帯が描いてきた地域のストーリーである。

「うねる大地」とは波状丘陵地帯を、「十勝岳の軌跡」とは噴火の歴史、十勝岳の恵みによる観光の発展、防災・減災の歴史を指している。

ウ 十勝岳ジオパーク構想のジオストーリー

ジオストーリーとは、地域の資源や歴史を物語とするもので、この物語を発信することで、地域の魅力をより分かりやすく来訪者に知ってもらうことができる。

ジオストーリーには、①「北海道の屋根十勝岳ものがたり」、②「大地に育まれた火山と共生する美しい丘のまち」、③「十勝岳泥流のつめ痕に北の大地を切り拓く」の三つがある。

エ 主なジオサイト・生態サイト・文化サイト

現時点でのジオサイトは、美瑛町にはグラウンド火口や望岳台など12カ所、上富良野町には安政火口、草分地区の大正泥流堆積物など9カ所となっており、生態サイトは、美瑛町に1カ所、文化サイトは、美瑛町に2カ所、上富良野町に2カ所となっている。

今後の調査研究により各サイトは増えたり、取り消されることもある。

(4) 将来活動に向けた課題

ジオパーク活動の推進は、一過性の事業ではなく上富良野町が存続する限り継続し、持続していかなければならない事業である。

よって、地域活性化に向けて持続可能なジオパーク活動にするため、将来を展望した中で次に掲げる課題点を一つ一つ着実に解決していくことが重要であると考ええる。

①美瑛町との連携を密にし、長期にわたる事務局体制の充実。②将来にわたる専門職の人材確保。③行政・推進協議会と住民・事業者との役割分担の明確化と共通認識の共有化。④経済効果を発揮するため宿泊施設の拡充とジオ食の開発、ジオツアーの企画、ジオ関連特産品やグッズの開発。⑤計画的に担い手を確保するため、住民周知の活動強化。⑥ガイド等の継続的養成などが考えられる。

行政及び推進協議会は課題解決に向けて住民とともに最大の努力が必要と考ええる。

(5) 結論（まとめ）

本委員会の閉会中の継続調査として、「ジオパークによる地域活性化について」調査・研究を進めてきたが、人口減少社会・超高齢社会現象の中で上富良野町の将来は、ますます疲弊・衰退することが予想される。

ジオパーク活動に取り組むことにより、①経済的視点として、ジオパーク活動による地域経済の活性化が期待でき、住民が地域の資源を再認識し理解が進むことで新たな活用方法が生み出され、経済の進展につながる。また、観光関係者、商業者、農業者など様々な人々の協力体制が生まれ、協働によるまちづくりが進む。②教育的視点として、次代を担う子どもたちが十勝岳の噴火・泥流災害・復興の歴史を学ぶことで、深い郷土愛や地域への愛着心を醸成し、この地域で暮らし続けたいと思えるような郷土学習が図られ、人口減少などの問題解決にもなると考える。③将来的視点として、日本ジオパーク認定が受けられることにより、長期的に行政と住民の協力のもと継続的・持続的に活動が行われることで、まちづくりの明確な目標となり無形の資産を形成する可能性が高まると考える。

以上のことから、将来のまちづくりの起爆剤・原動力となりうる可能性が高いと思われことから、美瑛町・上富良野町によるジオパーク活動への取り組みが必要と考ええる。

2 友好都市提携の方向性について

(1) カナダ国カムローズ市

ア 現状と課題

カムローズ市と上富良野町は、昭和 60 年 9 月に友好都市提携の調印をしてから今年で 32 年を迎える。

これまで、上富良野高校生の親善訪問を初めとして、上富良野町の有志団体や青少年海外派遣事業として中・高校生がカムローズ市を訪問し交流を重ね、現在に至っている。

一方、カムローズ市からも市長・議長を始め多くの市民が上富良野町に訪れている。

また、カムローズ市コンポジットハイスクールからも校長や教師、生徒たちが本町に数度ホームステイや研修視察に来ているが、平成 18 年に一行 50 名が上富良野町を訪れたのが最後となっている。

本町にはカムローズ市の協力のもと英語指導助手がこれまで 7 名招へいされ、学校教育や社会教育の英語教育や英会話の場面で活躍をしていたが、ブレンダ・クヌールさん(平成 25 年 8 月から 27 年 7 月)を最後に英語指導助手は公募形式となった。

イ カムローズ市との主な交流の歴史

年 月 日	主 な 交 流 内 容
1985(昭和 60)年 3 月 20 日 9 月 4 日～ 7 日	カムローズ市との友好提携について議会提案し、議決される カムローズ市長ほか4名が来町し、「カムローズ市・上富良野町」友好都市提携調印、記念碑除幕式出席
1986(昭和 61)年 7 月 9 日	「上富良野町・カムローズ市友好委員会」設立
1988(昭和 63)年 1 月 30 日 5 月 5 日 7 月 10 日～10 月 10 日 10 月 24 日～11 月 20 日	社会教育総合センターに「カムローズコーナー」設置 カムローズ市長より、本町開基 90 周年に対し、メッセージ届く 「広報かみふらの」に国際交流欄を設け掲載 「カナダ写真展」開催(社会教育総合センター)
1989(平成元)年 1 月 6 日	カムローズ市関係者から十勝岳噴火に対するお見舞届く
1990(平成 2)年 9 月 12 日～21 日	友好提携 5 周年親善訪問団 15 名カムローズ市を訪問し、「北海道・アルバータ州姉妹提携 10 周年記念式典」、「上富良野町・カムローズ市友好提携 5 周年記念式典」出席
1995(平成 7)年 7 月 17 日 ～8 月 2 日 11 月 3 日～11 月 5 日	友好提携 10 周年訪問団 4 名カムローズ市を訪問し、「北海道・アルバータ州姉妹提携 15 周年記念式典」、「上富良野町・カムローズ市友好提携 10 周年記念式典」、「友好提携 10 周年記念調印式」、「北海道フェスティバル・イン・アルバータ」出席 「カムローズ特別展」開催(社会教育総合センター)
1997(平成 9)年 7 月 29 日 ～8 月 2 日	カムローズ市長ほか 4 名来町し、開基 100 周年記念式典出席、カムローズ市からバラの苗 100 本の寄贈を受ける
2000(平成 12)年 9 月 6 日 ～9 月 14 日	友好提携 15 周年訪問団 12 名カムローズ市を訪問し、「アルバータ州・北海道姉妹提携 20 周年記念式典」、「アルバータ州・北海道姉妹都市連絡会議」、「カムローズ市・上富良野町友好提携 15 周年記念式典」出席
2001(平成 13)年 5 月 28 日 ～6 月 5 日	教育委員長、教育長ほか 1 名がカムローズ市を訪問し、kamifurano park 表示板設置除幕式に出席、ラベンダー植樹を行う

2005(平成17)年9月5日	「カムローズ市・上富良野町友好提携(20周年)延長盟約」締結
2007(平成19)年7月30日 ～8月7日 7月31日	第5回青少年海外派遣事業及び友好都市提携20周年記念事業団23名カムローズ市を訪問 日本・カムローズ友の会が友好都市提携20周年記念クロックタワーを建立、記念式典・除幕式に訪問団出席
2010(平成22)年8月2日 ～8月7日	友好都市提携25周年記念事業訪問団14名カムローズ市を訪問し、「上富良野町・カムローズ市友好提携(25周年)延長盟約」締結
2015(平成27)年9月5日 10月31日～11月3日	「上富良野町・カムローズ市友好都市提携(30周年)延長盟約」締結 「カムローズ市・上富良野町友好都市提携30周年交流の軌跡写真展」開催(社会教育総合センター)
1985(昭和60)年9月5日 ～2017(平成29)年3月31日	上富良野高校海外派遣(5回、延54名) 青少年海外派遣事業(8回、延177名) カムローズ市への派遣、表敬訪問(4回、延10名) カムローズ市などカナダ国からの訪町、ホームステイ受け入れ (30回、延167名) 北海道・アルバータ州姉妹都市連絡会議の上富良野町での開催(3回)

ウ 結論(まとめ)

カムローズ市との友好都市提携については、最近、海外からの観光客が増加してきている中で、高校生を含め町民の交流と英語力を高める上においても、カムローズ市との交流は意義深いものとする。

しかし、英語指導助手のカムローズ市からの招へいが困難となり、このことにより交流が疎遠になりつつある。また、カムローズ市との交流窓口として長年支え続けた「日本・カムローズ友の会」も中核を担ってきた人材の引退に伴い、双方の調整に支障をきたしている状況にある。

以上のことから、今後において、カムローズ市と上富良野町の友好都市提携を細く長く続けていくためには再度、双方の窓口の明確化と、今まで英語指導助手のカムローズ市からの招へいが友好関係に果たしてきた役割は大きかったことから、カムローズ市からの招へいに向け、さらなる努力を重ねることが必要とする。

(2) 三重県津市

ア 現状と課題

三重県津市と上富良野町の交流は、明治30年4月、三重団体田中常次郎一行が、現在の草分地区に入地したことに始まる。

歴史的つながりの深い津市との交流を深めて歴史文化等を学ぶ中から、歴史文化を伝承すると共に、観光や農業分野の発展を図ることを目的に平成9年7月30日に友好都市提携の調印をするに至った。

現在まで、子ども会の交流、安東小学校と上富良野西小学校との相互訪問活動を初めとして、議会、県人会、ライオンズクラブ、行政、民間による農産物の販売や経済交流、ラベンダーの植栽等、様々な交流が続けられてきた。

また、「平成の大合併」により津市が近隣9市町村と平成18年1月1日に合併したが、上富良野町との友好都市提携については、歴史的なつながり、

これまでの交流の深さなどから、その後も津市と上富良野町との提携は継続されている。

今年、提携 20 年を迎えるが、一般町民からすると、津市との交流内容や取り組み状況が十分把握できていない状況にある。近年、「津まつり」や「津駅前ストリートまつり」などのイベントへ積極的に参加し、町の紹介や農産物などの販売を行っている。

しかしながら、行政や団体間の交流は充実しつつも、イベントに参加する人や訪問する人たちが固定化され、発展性に欠ける傾向が見受けられる。

継続性や経済交流の進展を考えると、今後、様々な分野の人たちの交流にも力を注がなければならないと考える。

イ 津市との主な交流の歴史

年 月 日	主 な 交 流 内 容
平成 8年 4月12日 7月23日	津・上富良野両ライオンズクラブの姉妹クラブ締結調印（津市） 上富良野・津両ライオンズクラブの姉妹クラブ締結調印（上富良野町）
平成 9年 7月29日～8月 1日 7月30日～31日 7月30日 7月31日 10月9日～11日	津市公式団一行来町(上富良野町開基100年一連事業参加) 津市市民団一行来町(上富良野町開基100年一連事業参加) 津市・上富良野町友好都市提携調印式、友好提携記念碑除幕式、津市安東小学校・上富良野西小学校姉妹校提携式 上富良野町開基100年記念式典津市一行列席 上富良野町長・教育長・議長・副議長・各委員長19名津市訪問 津市友好都市提携記念碑除幕式出席、津まつり、ふるさと小包まつりに参加
平成10年 3月31日 12月23日～24日	「津市紹介コーナー」設置（社会教育総合センター） 上富良野町長・教育長津市訪問し、「上富良野町・津新町通り商店街友好記念かみふらの小公園」除幕式出席
平成18年 1月 1日	津市、久居市、安濃町、河芸町、芸濃町、美里村、香良洲町、一志町、白山町、美杉村の10市町村が合併
平成21年10月10日～12日	上富良野町長、議会議長、教育長、町民生活課長津市訪問
平成24年 7月12日～14日 7月21日～23日 10月 7日～ 9日 10月 9日 12月10日	友好都市提携15周年記念 津市民訪問団20名来町 津市長一行 6名来町 上富良野町民訪問団19名津市訪問 「災害時の情報発信に関する相互応援協定書」調印（津市役所） 津市クイズ実施
平成26年 3月26日 7月22日～8月 3日 7月30日～8月29日	津市に上富良野町の四季写真パネル（38枚）を送付 「友好都市津市紹介パネル展」開催（社会教育総合センター） 「友好都市上富良野町写真パネル展」開催（津市役所）
平成27年 7月21日～ 8月 2日 7月28日～8月28日 11月16日～17日	「友好都市津市紹介パネル展」開催（社会教育総合センター） 「友好都市上富良野町写真パネル展」開催（津市役所） 町議会厚生文教常任委員会8名 津市視察研修
平成28年 7月13日 7月23日～8月7日 10月17日～18日	(有)フラワーランドかみふらのと(株)フューチャー・ファーム・コミュニティ三重が「相互の地域農業発展のための『文化・産業交流』協定」を締結 「友好都市津市紹介パネル展」開催（社会教育総合センター） 町議会総務産建常任委員会7名 津市視察研修

平成9年7月30日 ～平成29年4月30日	青少年国内交流事業（7回、延273人） 上富良野西小学校から津市安東小学校への訪問（7回、延78人） 安東小学校からの来町（6回、延77人） 津市ライオンズクラブの来町（6回、延104人） 上富良野町ライオンズクラブの津市訪問（5回、延93人） 津市議会（各会派等）来町（12回、延53人） 津まつりほかイベントへの出店（8回、約30人） 津市への訪問、派遣（22回、約185人） 津市からの来町（34回、約240人）
--------------------------	---

ウ 結論（まとめ）

今年20年という節目を迎える津市との友好都市提携を継続・発展させていくためには、次世代の交流の担い手となる児童・生徒の相互訪問の機会を拡充すべきである。児童・生徒がお互いのまちの結びつきや歴史的文化を学び、より理解を深めて行くことが将来の交流の大きな支えになることは明らかであると考ええる。

友好都市提携の目的の一つである経済振興は、お互いのまちにあるモノ、無いモノを知りあうことが重要である。津市の特産品には梨、リンゴ、伊勢茶、カニ、エビ、タオル、草履などがあり、上富良野町には米、馬鈴しょ、メロン、小麦、大豆、小豆などがある。お互いあるモノ、無いモノを認識し、求め合い、生かし合う「互産互消」という考え方を尊重し、農産物や特産品を受け入れ、販売していくことが経済の振興になると考える。

さらに観光面では、上富良野町にはラベンダー、十勝岳、雪など津市に無い観光資源があり、一方、津市には夏の海や北海道に無い貴重な歴史がある。これらをキーワードにさらなる観光面での交流も深められることを期待するものである。

今後、津市・上富良野町にとってより意義深い交流となるよう積極的な施策を展開していくことが必要と考える。